

中国語検定に挑戦!!

文学部2年 川口 舞

私は一年生の秋に中国語検定準四級と四級の二つを受験しました。大学に入学して、はじめて中国語に出会いその面白さの虜になりました。授業も一番楽しみにしていたし、一生懸命に取り組んでいました。そんな中、先生のお声掛けもあって、学習の目標として検定試験の受験を決意しました。最初は準四級のみを受験するつもりでした。中国語検定四級は、目安として第二外国語で一年間履修程度のレベルであり、半年しか勉強していない私には未学習部分もありました。ギリギリまで悩みましたが、中国語に対する熱い気持ちから二つの受験を決意しました。

しかし決意したものの、残された時間は一か月あまりしかなく、検定対策問題集を一冊仕上げる時間ありません。私は中国語の先生の協力もあって、準四級、四級それぞれ過去十年分以上の過去問だけに集中して取り組みました。過去問をひたすらに解いていくうちに分かってきますが、中検はとって出題傾向が分かりやすいです。聞かれることは大体決まっています、毎回のように同じような問題が出ます。なので、どれだけ中国語が出来ても、どれだけ一生懸命勉強しても、ポイントを押さえることができないと点数は伸びません。数をこなすと自分の苦手な点も明確になってくるので、私はそれをポストイットに記入して部屋や手帳に貼り付けて常に意識するようにしていました。

リスニングについては、まだ自らの声調も安定しておらず、耳も慣れていなかったので毎日聴く必要がありました。毎日決まった時間を確保するためにLL視聴室での学習を心がけ

ました。LL教室には過去何十年分の過去問があり、視聴室ではCDを聴くことができます。平日は19時までやっていて沢山の過去問で練習することができました。私がやったことは本当に単純でとにかく沢山の過去問を解いて、リスニング問題は毎日取り組み、自分自身で傾向、パターン、ペースを体得するとういうことのみです。

検定は自分の励みになり、やる気を高めてくれます。皆さんもチャレンジしてみてください。



ロシア語検定試験に挑戦

経済学部 清水 伸子

現在、日本で受験できるロシア語検定試験は(通訳ガイド試験を除いて)東京ロシア語学院のロシア語検定試験とТРКИ(「外国人のためのロシア語検定試験」)の二種類ありますが、文法・語彙に関する試験内容の手堅さと、過去問が入手可能、受験の手軽さ(各都道府県にある日本ユーラシア協会を受験可能)から言って、東京ロシア語学院のロシア語検定試験受験をお勧めします。

各級のレベルについて

このロシア語検定試験は、4級から1級までのレベルに分かれています。4級と3級が初級文法事項を確認するレベル(3級には、一部中級文法の内容が含まれます)、2級以上が中・上級文法事項を確認するレベルとなっています。

愛知大学語学教育研究室の奨励金申請対象は4級以上ですし、大学2年生までの授業内容は